

開会挨拶

著者	木越 英夫
雑誌名	人文社会系分野における研究評価 : シーズから二 ーズへ : 研究大学強化促進事業シンポジウム報告 書
ページ	7-9
発行年	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00155092

開会挨拶



木越 英夫

筑波大学副学長・理事：研究担当

研究担当副学長の木越と申します。よろしく申し上げます。本日は、筑波大学 URA 研究戦略推進室主催の研究大学強化促進事業シンポジウム『人文社会系分野における研究評価～シーズからニーズへ～』にご参加いただきまして誠にありがとうございます。雪が降っていたようですが、足元の悪いところ、ありがとうございます。筑波大学は、45年前に日本で最も新しい総合大学としてスタートしました。新構想大学としまして、これまでに新しい研究と新しい教育を推進してきました。

教育と研究の評価につきましては現在、試行錯誤が行われているところです。ご存じのように THE や QS に代表される世界大学ランキングと呼ばれるものがありますが、その評価指標の中では、論文の指標は被引用数に基づいています。被引用数とは、例えば Scopus のような商用データベースに載っているものから引用されます。そのような商用データベースに引用されていない研究力は、評価されていない現状があります。

個々の研究論文の評価に加え、研究者を評価する他の指標もあります。h-index や FWCI です。そのようなものも全て被引用数を引っ張ってきています。特にきょうのテーマとなっている人文社会系の研究者のかたがたには、自分自身が考える自分の研究業績評価と、外からの評価が大きく異なっていると感じている方が、非常に多いことでしょう。

2015年に当時の文部科学大臣が、人文社会系の学部における問題点を提起されました。現在も人文社会系の研究に関する成果の発信と、社会との関連につ

きましては、いろいろなところで検討されて、良くしようと努力しているところ
です。筑波大学では、この通知以前から理工系以外の研究力の評価指標につ
いては取り組んできました。きょうは、その一端をお話してできることでしょう。

指標の開発につきましては、「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確
保するシステムの整備（リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備）」
や、「研究大学強化促進事業」が大きく関わっています。本日、このようなシ
ンポジウムが開催できましたことに対して、この関係者や文部科学省の関係者
のかたがたに感謝を申し上げます。本日は、プログラムにありますように評価
を受ける側と評価をする側、出版とデータを提供する側の、三つの立場からお
話を聞くことになっています。

評価を受ける側からは、まずは本学の池田から本学の人文社会系で独自に開
発してきました指標 iMD につきまして、数値を示すことが難しい分野を明ら
かにしようとの試みについてのお話しができると考えています。忌憚のないご
意見を聞けることを期待しています。国立歴史民族博物館の後藤先生からは、
総合資料学がご専門とのことで、人文社会系における研究論文の、量的評価の
観点をお話いただけます。

出版とデータを提供する側からは、Elsevier のアンデシュ・カールソン先生
と、F1000 Group のレベッカ・ローレンス先生からお話を聞くことになってい
ます。最新の動向についての情報をお聞きできることでしょう。評価する側と
しては、国立大学法人評価委員会の委員でもあります読売新聞記者の松本美奈
さんと、ビデオメッセージでデヴィッド・スウィーニーさんから研究や大学に
期待することについてお聞きします。

本シンポジウムは、本学の URA 研究戦略推進室の主催です。筑波大学の
URA 戦略推進室では、本学での研究力の強化および研究環境の改善につつま
して、本部と部局の橋渡しを行いながら強い連携を支援しています。また、異
分野の融合研究を推進させるべく新たな学問分野を創出し、世界に存在感ある
フロントランナーであるべき研究戦略を立案・実行する組織として定着しつ
つあります。

本日のシンポジウムは、日本の各地からたくさんのかたがたに参加いただい

ています。本当にありがとうございます。御礼申し上げます。最後までお付き合いいただき、皆さんからの忌憚のないご意見もお寄せください。この研究指標や評価は、非常に重要になってきています。良いものにしていきたいと思しますので、皆さんのご意見を頂戴したいと考えています。よろしく願いいたします。